

- ▶ 昨年9月の部会以降、熊本大学渡鹿団地で複合商業施設の整備が検討されるなど産業道路沿線の動きが活発化
- ▶ 長嶺方面におけるバス走行環境の改善に向けて、沿線の動きや交通特性等も踏まえて、安全性・事業性の観点から再検討
- ▶ 令和8年度について、まずは交通量の分散に向けた社会実験を行うことで、バスの定時性・利便性の向上を図るとともに、あわせて課題が深刻化している長嶺方面の混雑緩和に向けた交差点改良等の検討を進める

1. 検討に際してのポイント

(1) 安全性の確保

- これまでの計画は、可能な限り現道区域内での道路再配分によるバスレーンの導入
- 一方で、バスや一般車の安全かつ円滑な走行には相当分の幅員が必要となり、当初計画よりも事業費が増大する見込み

(2) 産業道路沿線の動きとの連携

- 九品寺交差点付近のイオン熊本中央店跡地で新たな商業施設が検討
- 警察学校横の熊本大学渡鹿団地では、複合商業施設の整備が検討

道路交通への影響が想定される沿線開発の動向も加味し、安全・安心かつ持続可能な走行空間の確保に向けて再検討

2. 検討の進め方

<Step1 現状分析>

- 実態調査の結果やプローブデータ等を活用し、産業道路を通行する車両の移動実態やバスの利用状況、道路の状況、産業道路周辺の人口分布等を分析
- 産業道路沿線の開発動向をキャッチアップし、現道への影響を検討
- 分析結果をもとに、施策の方向性とターゲットを設定

<Step2 施策の検討・実行>

- 優先検討方面である長嶺方面（産業道路・国体道路）におけるバス走行環境の改善に向けて、効果的な施策を検討

3. 令和8年度の取組

- バスの定時性・利便性向上による交通渋滞の緩和を図るため、**交通量の分散（移動時間、移動手段、移動ルート）の分散に向けた社会実験**を行う
- あわせて、バス需要が高い一方、バスの遅延が多く、市内でも特に混雑している産業道路において、ボトルネック解消による渋滞緩和に向けた**交差点改良等の検討**を進める

→ 具体の対策内容については、今後検討を進める（本協議会等で議論）

→ 令和8年度の検討結果等を踏まえ、次年度以降の施策に展開